文庫めぐり (13)

鹿山文庫

［来歴と概要］千葉県立佐倉高等学校は、寛政四年に創立された佐倉藩校佐倉学問所に由来する。そのため高校としてはめずらしく、藩校時代を中心とする古書籍を所有していることは有名であり、和装本のすべてと、明治四五年以前に刊行された洋装本を総称して「鹿山文庫」とよぶ。

佐倉城跡のある高台が鹿島山と呼ばれており、佐倉高校が明治四三年に現在地に移転するまでは佐倉城追手門前に所在していたので、校名も「鹿山精舎」「鹿山中学」などと称されていた歴史もあり、ゆかりの地であることにちなんで命名された。

本文庫の成り立ちは、一、藩主堀田氏をはじめ、佐藤泰然、松本良順などの個人の蔵書から藩校の蔵書となったもの。二、佐倉成徳書院や医学所の蔵書であったもの。三、佐倉軍事調所をはじめ藩の機関の蔵書であったもの。四、佐倉英学校や佐倉中学校など、近代の教育機関の蔵書として収集されたものなどである。これらはぞれぞれの蔵書印が押されていることによって、その由来を確定することができる。

本文庫には和装本は国書と漢籍をあわせて六三〇部、八九一二冊、洋装本は蘭書をはじめ輸入洋書と明治期刊行書など八八八部、一六二三冊、合計一五一八部、一〇五三五冊が収蔵されている。

佐倉藩では蘭学をはじめとする洋学が盛んであったので多数の蘭書が現存し、とくに「江戸ハルマ」とよばれた『ハルマ和解』と、「長崎ハルマ」とよばれた『ドゥーフ・ハルマ』は貴重な存在である。これらに『訳鍵』と『和蘭字彙』をくわえて、わが国におけるオランダ語学習の歴史においてもっとも貴重な辞書が勢揃いしている。

『采覧異言』（新井白石）や『環海異聞』（大槻玄沢）、カラーメルスの『世界地名辞典』をはじめとする地理書、『気海観瀾』（青地林宗）や『舎密開宗』（宇田川榕庵）、ギュラルディンの『舎密書』などの理学書があるが、医学書としては残念ながらわずか四四部（洋書三三部、和書一一部）しかない。

［蔵書目録］『鹿山文庫目録』千葉県立佐倉高等学校編、一九七一年、八七ページ

［所在地］千葉県佐倉市鍋山町一八番地　千葉県立佐倉高等学校地域交流施設サクラ・クルテュレール・セントラム〒二八五-〇〇三三　☎〇四三-四四-一〇三一（代）

［利用法］開館日は木曜から日曜まで。開館時間は午前一〇時から午後四時までだが、正午から一時までは閉館する。貸出し、コピーはできないが、一部書籍はマイクロフィルムにおさめられている。

（深瀬　泰旦）